

平成23年度 市民協働のまちづくりアンケート調査結果 (市民活動団体)

【調査期間】 平成23年10月11日～20日
【対象者】 市民活動団体（187団体）

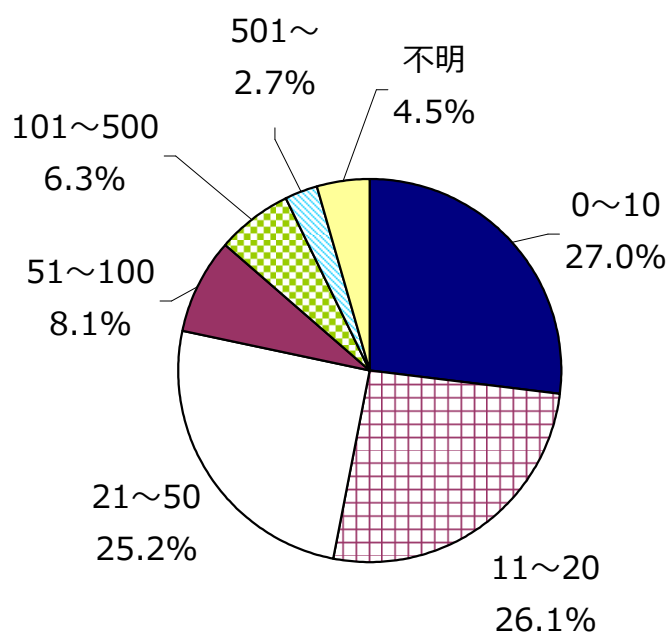
回収率

合計	111
送付数	187
回収率	59.4%

【問1】 団体の会員数をご記入ください。（平成23年10月1日現在）

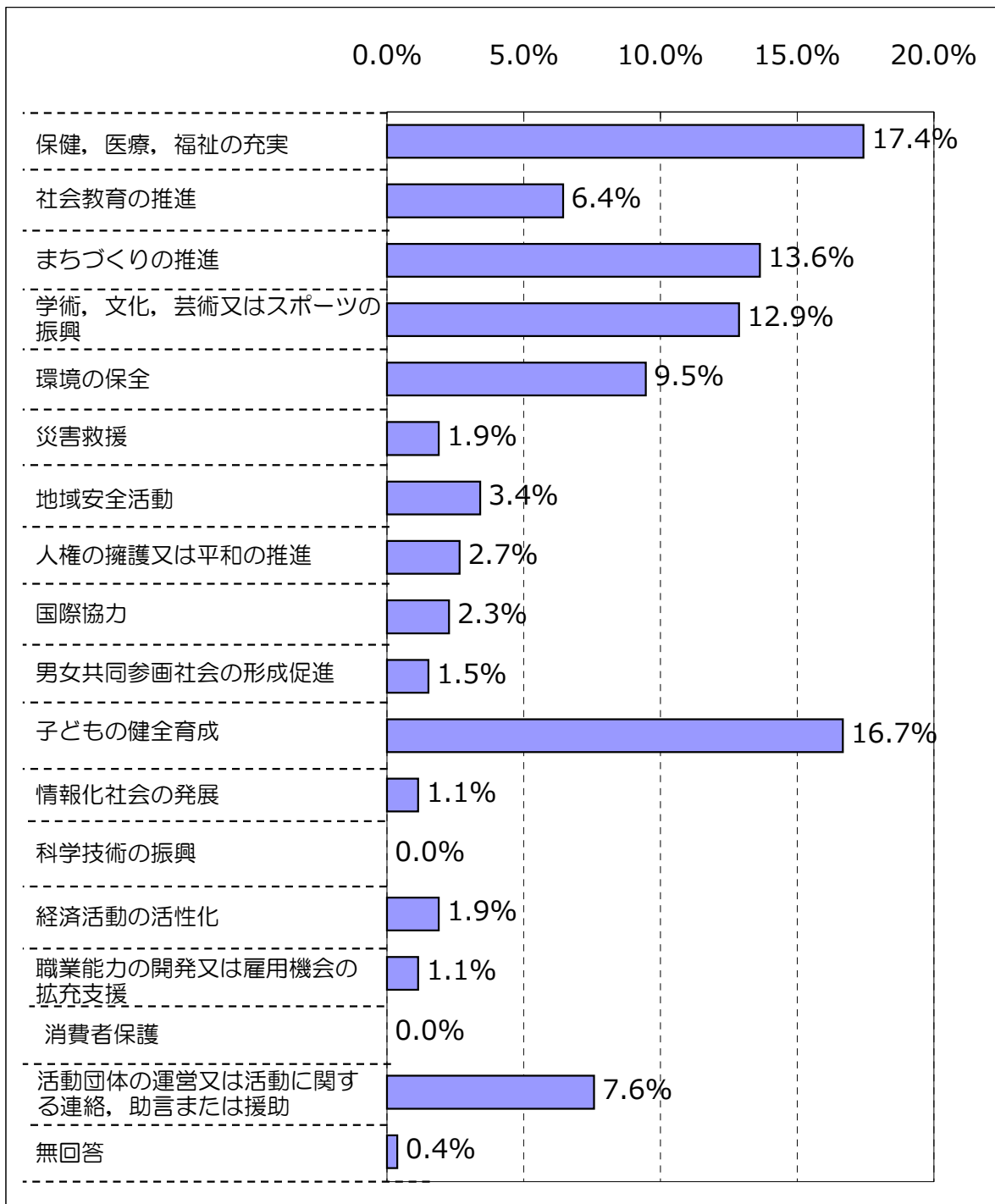
0～10人の会員で構成された団体が最も多く、その次に11～20人、21～50人と続いている。会員が100人を越える団体は現時点で6.3%に留まっており、少人数で運営する団体が多いことが分かる。

【問1】



【問2】貴団体の主たる活動分野は何ですか。あてはまるものすべてに○をしてください。

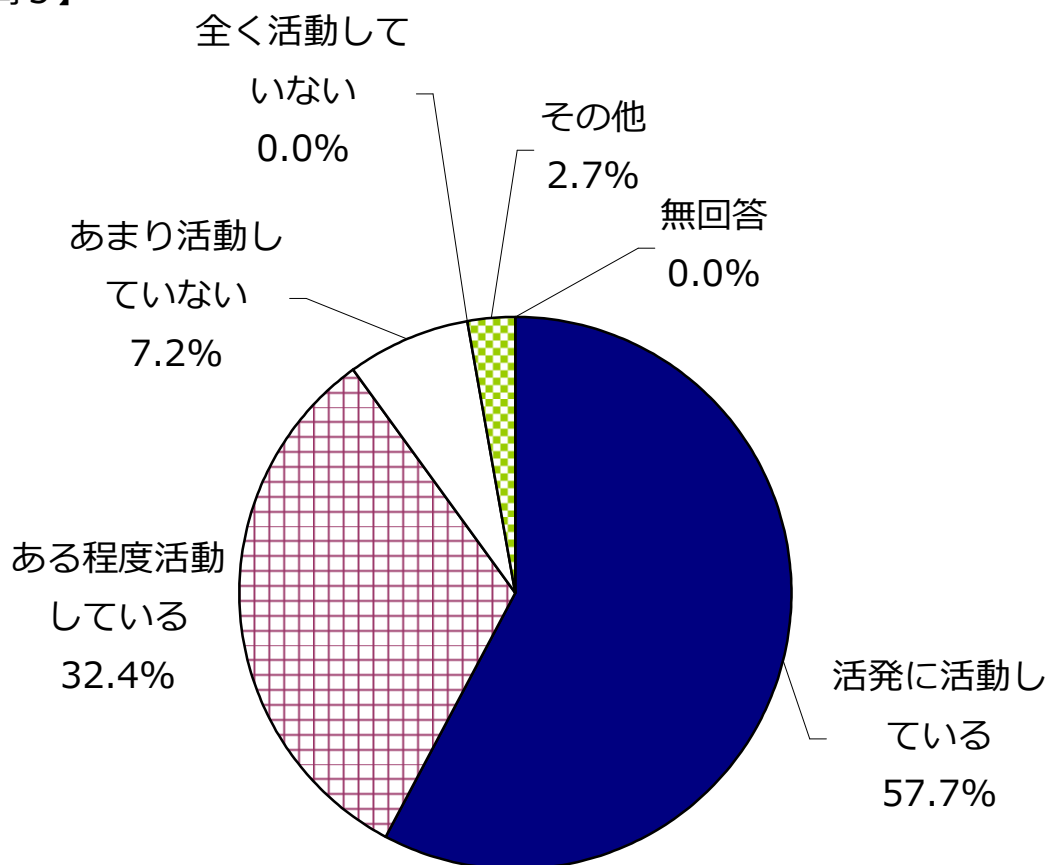
「保健、医療、福祉の充実」が17.4%、続いて「子どもの健全育成」が16.7%となっており、子育ても含めた福祉関係の団体が多いという結果になっている。一方、科学技術や消費者保護は0%で、「活動団体の運営又は活動に関する連絡、助言または援助」も7.6%に留まっている。平成19年度の調査においては、「高齢者・障害者福祉に関する活動」が最も多くなっており、4年前と現在では活動の分野に大差は出ていないと思われる。



【問3】貴団体は活発に活動を行っていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

活発に活動をしている団体が50%以上であり、ある程度活動している団体が32.4%であることから、ほとんどの団体が活動を維持していることが分かる。一方であまり活動していない団体も7.2%あった。

【問3】

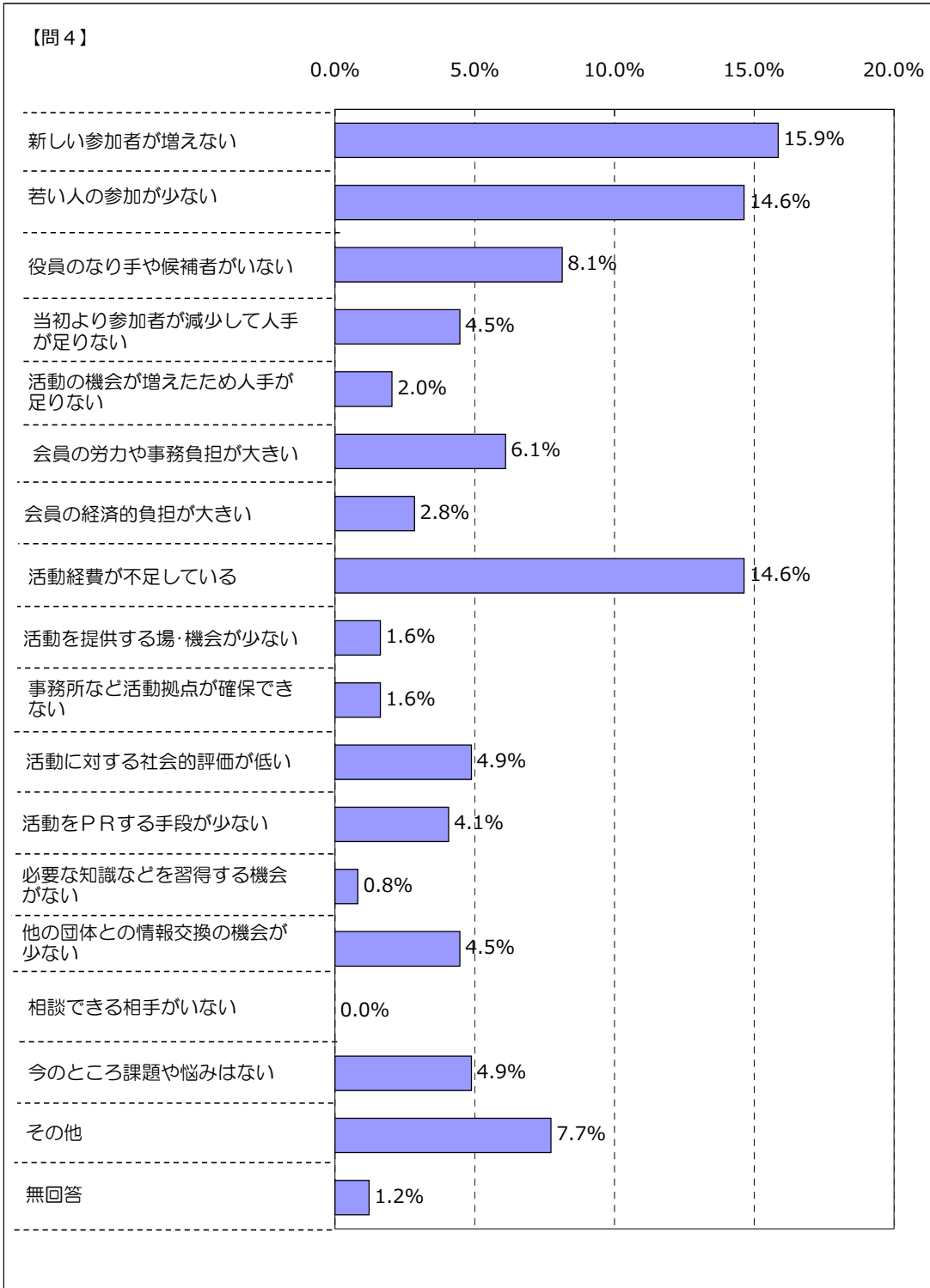


【その他】

- ・2年間休止中
- ・現在活動停止中
- ・月1回の活動

【問4】貴団体が活動するうえで、現在抱えている課題は何ですか。あてはまるものに○をしてください。（○は3つまで）

最も多かったのは「新しい参加者が増えない」で15.9%であった。続いて「若い人の参加が少ない」も14.6%と多くなっており、人材不足が大きな課題であることが分かる。これは住民組織に対するアンケートで「改善すべき点は何ですか」の問いに対し、「活動の担い手を充実させること」が最も多くを占めていたのと共通している。また、「活動経費が不足している」も「若い人の参加が少ない」と同じ14.6%となっており、人材と資金という活動に不可欠であるものが不足している現状が見える。



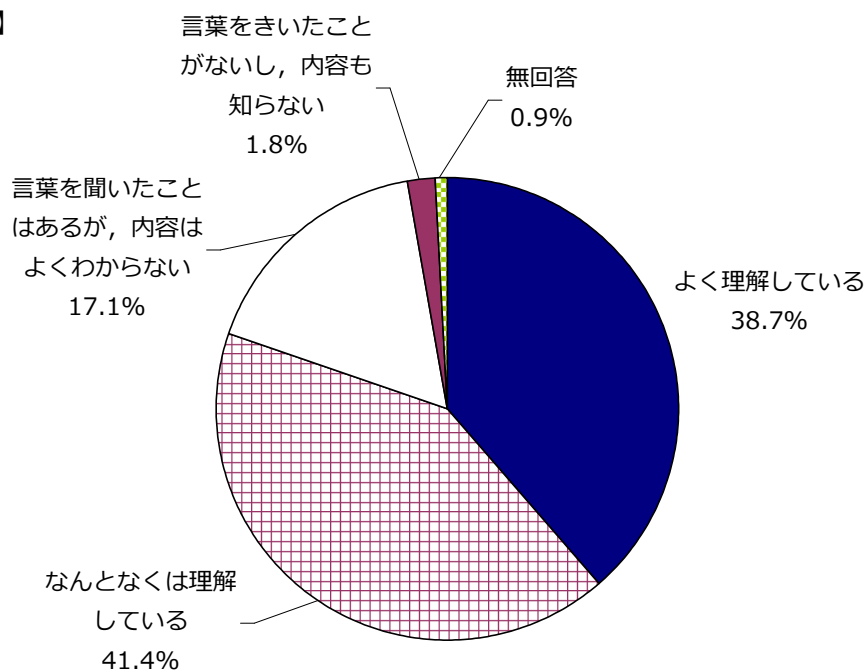
【その他】

- ・会員がそれぞれに仕事を持ったり複数のグループ活動に参加したりしている為、時間を合わせて活動する事が難しい（ミーティングが定期的にできない）（選択肢14の「他の団体との情報交換の機会がない」←この為に時間をつくる事が難しい）
- ・リーダーが実質的な運営を全てこなすので代わりがきかない
- ・今後の課題として新規会員をもう少し募集したい
- ・活動に対する地域の感心度、協力度が低い
- ・会員の高齢化
- ・会員が全員会社勤めのため、動きが制限される
- ・行政からの支援、教育委員会からの指導・支援が必要
- ・会員は各分野のオビオンリーダーの集まりのため、内容が豊富であり、最新情報の交換・交流をしている。得たものは、各会員の分野に生かしている
- ・就業女性が多いために活動者が限定される。
- ・単親世帯と云った理由の違いから（死別<離別）戦後の母子寡婦会のあり方・考え方にギャップがある
- ・会員の高齢化
- ・仕事が忙しく、活動との両立が難しい
- ・セミナー公演回答開催するが思う程参加が少ない
- ・今後の課題として新規会員をもう少し募集したい
- ・皆仕事を持っており、時間の調整がむずかしい
- ・メンバーの高齢化
- ・4月からの活動で高齢者相談センター等PRをお願いしている。
- ・会員が高齢化してきて昔のような活動がなかなか出来なくなってきた。
- ・活動に対する社会的評価が高い

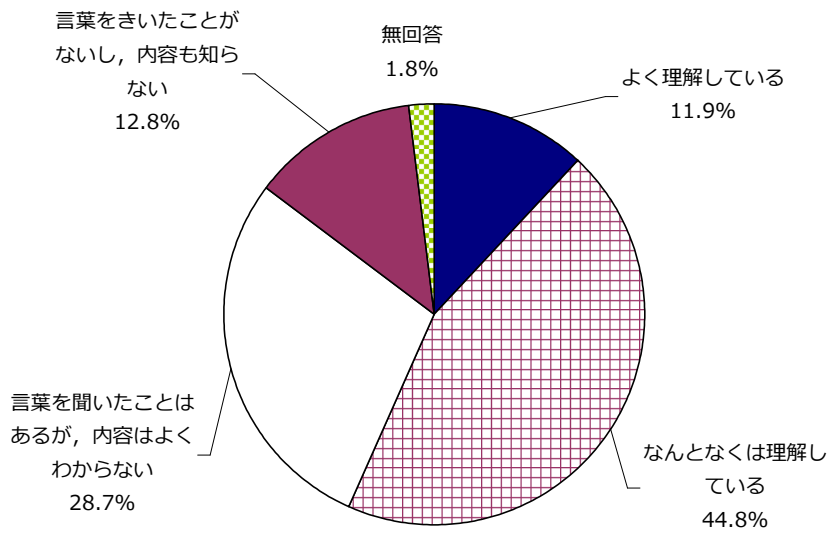
【問5】あなたは「市民協働」についてどのくらい理解していますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

「よく理解している」と回答したのは38.7%、なんとなく理解しているは41.4%で、合わせて80.1%が理解はしていると答えた。一方で、「言葉を聞いたことはあるが、内容はよくわからない」は17.1%、「言葉をきいたことがないし、内容も知らない」は1.8%と低い割合になっていた。住民組織と職員アンケートと比較すると、「よく理解している」と回答した割合が最も高くなっており、「言葉を聞いたことはあるが、内容はよくわからない」と回答した割合は最も少なくなっていた。

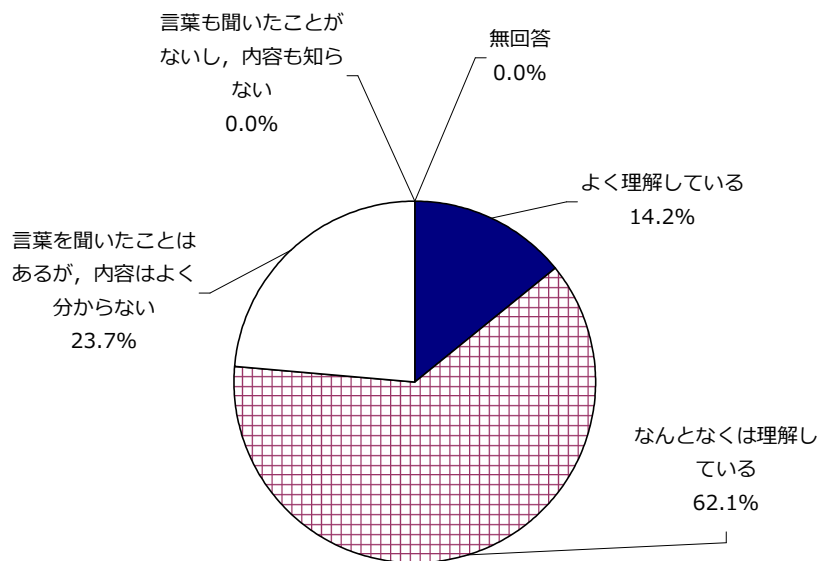
【問5】



【 H23 住民組織 】

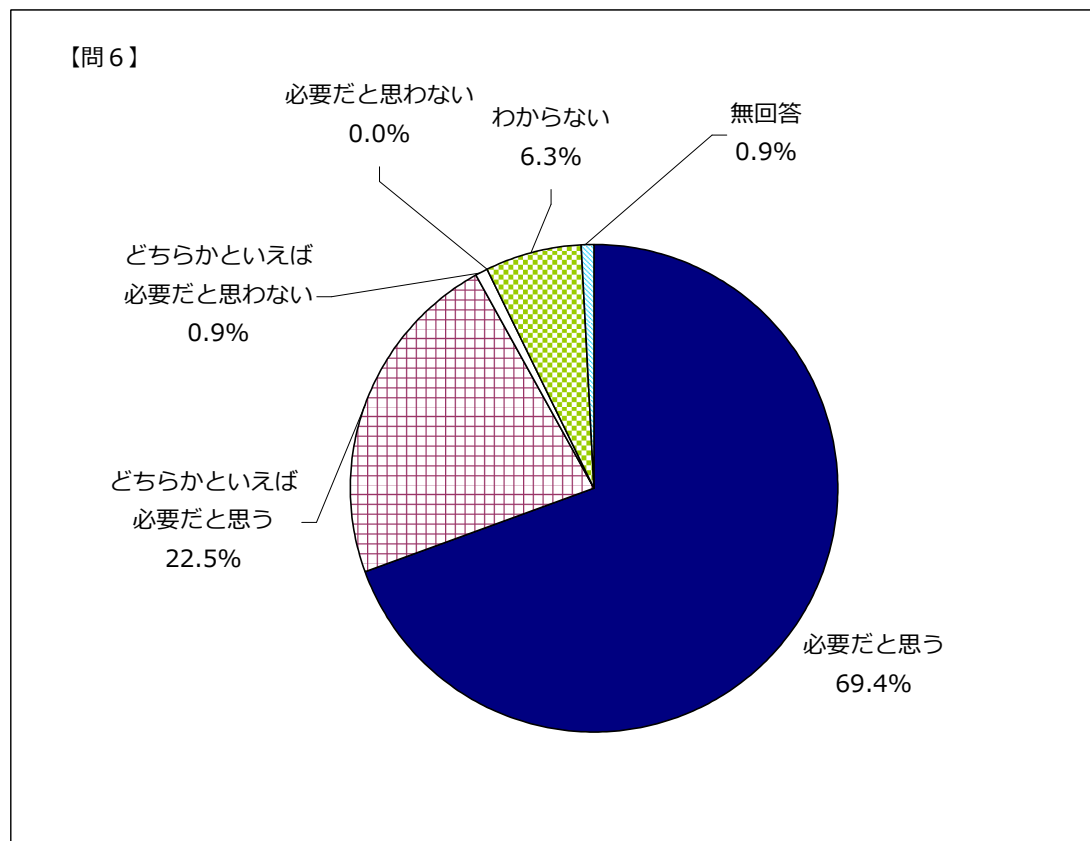


【 H22職員アンケート 】

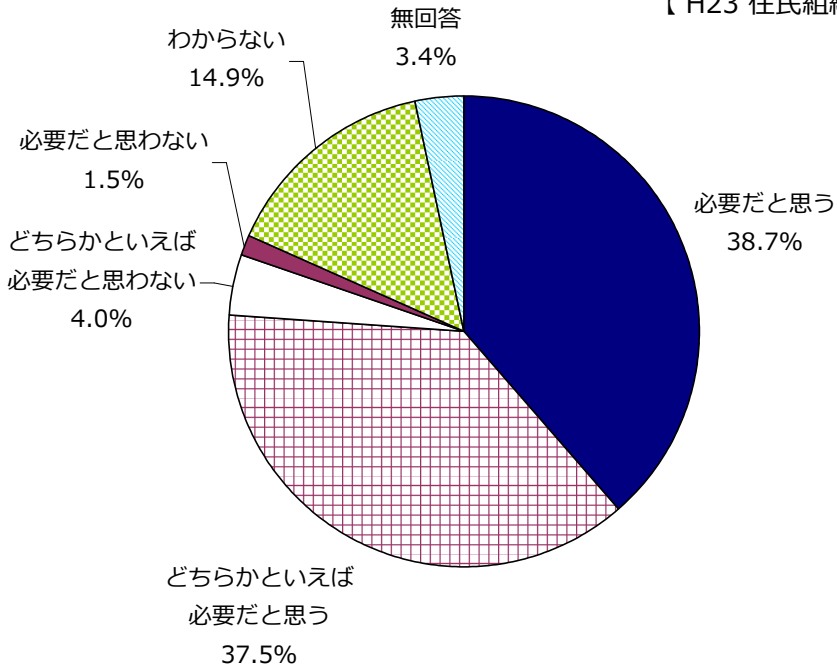


【問6】三原市において。市民協働のまちづくりを推進していくことについてどう思いますか。
あてはまるもの1つに○をしてください。

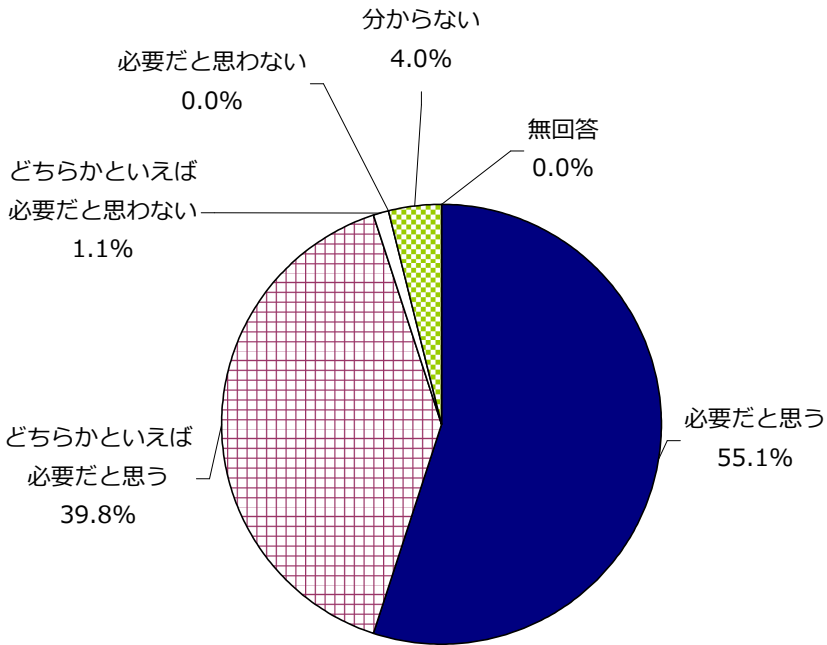
「必要だと思う」と回答した団体は69.4%で、住民組織・職員アンケートと比較して最も多くなっている。「どちらかといえば必要だと思わない」は0.9%、「必要だと思わない」は0%であり、必要でないと考えている団体は僅かであると分かる。



【 H23 住民組織 】



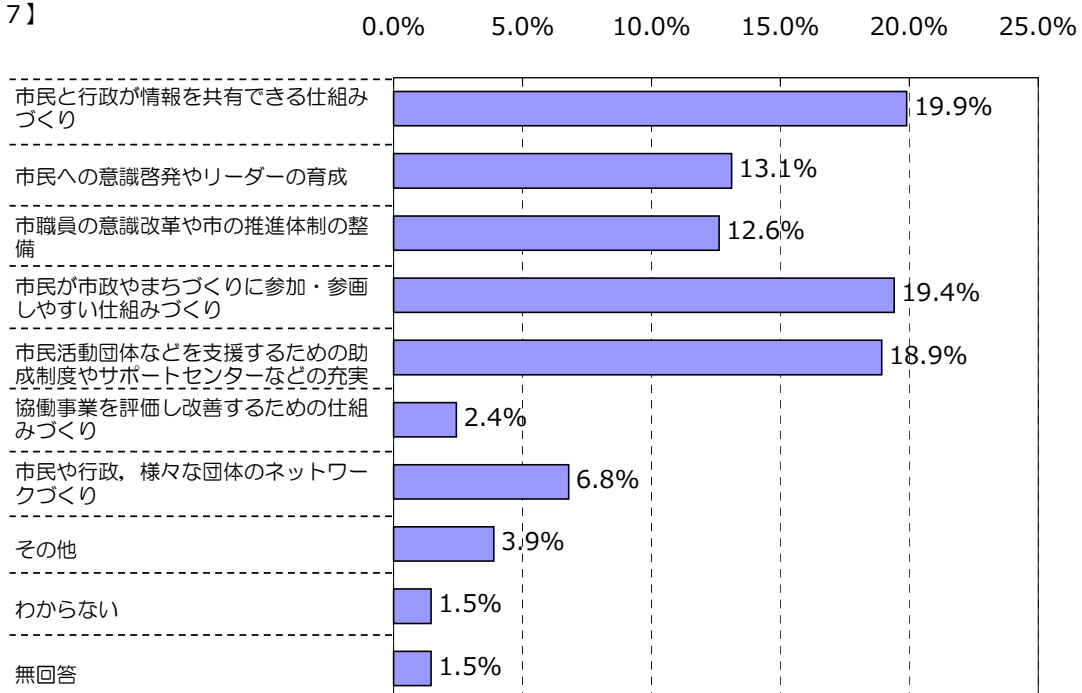
【H22職員アンケート】



【問7】あなたは、市民協働のまちづくりを推進するために、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものに○をしてください。（○は2つまで）

「市民と行政が情報を共有できる仕組みづくり」が19.9%と最も多くなっており、続いて「市民が市政やまちづくりに参加・参画しやすい仕組みづくり」が19.4%、「市民活動団体などを支援するための助成制度やサポートセンターなどの充実」が18.9%と、多くなっている。住民組織・職員アンケートと比較すると、「市民活動団体などを支援するための助成制度やサポートセンターなどの充実」が飛びぬけて多くを占めていることが分かる。

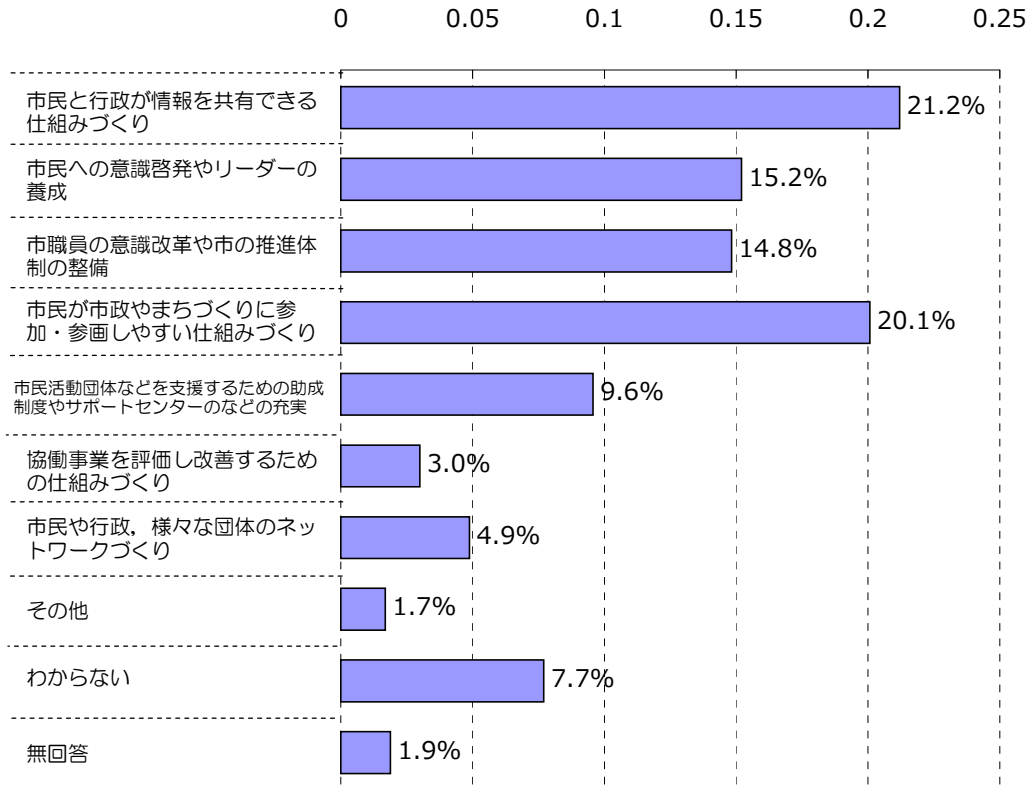
【問7】



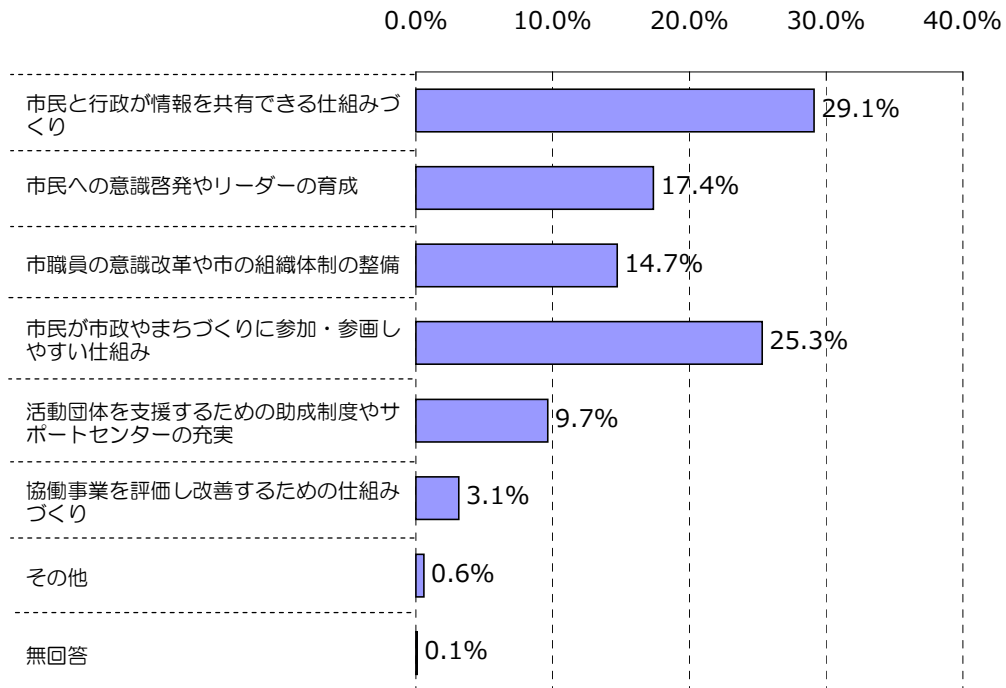
【その他】

- ・つながりをもてる場作り、サロンを月1回～ 3年以上継続
- ・市民協働まちづくりに何々あるかを知りたい
- ・市行政が地域の個性的な町づくりをしているのに勝手に方針転換しないこと。継続してほしい事
- ・業は全部個人負担になっている
- ・組織のあらい直しが必要
- ・市側の押し付けでない自発的に活動になるような仕組みづくり
- ・協働といいながら各団体が勝手に計画推進している
- ・行政の縮小。倭約。市民の自立。
- ・どれが重要なかわからない。どれも大切だと思う。

【住民組織】

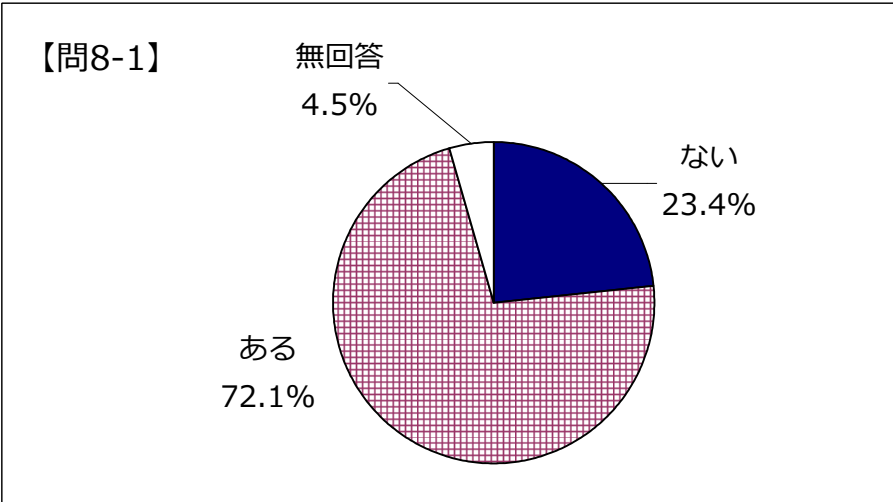


【H22職員アンケート】



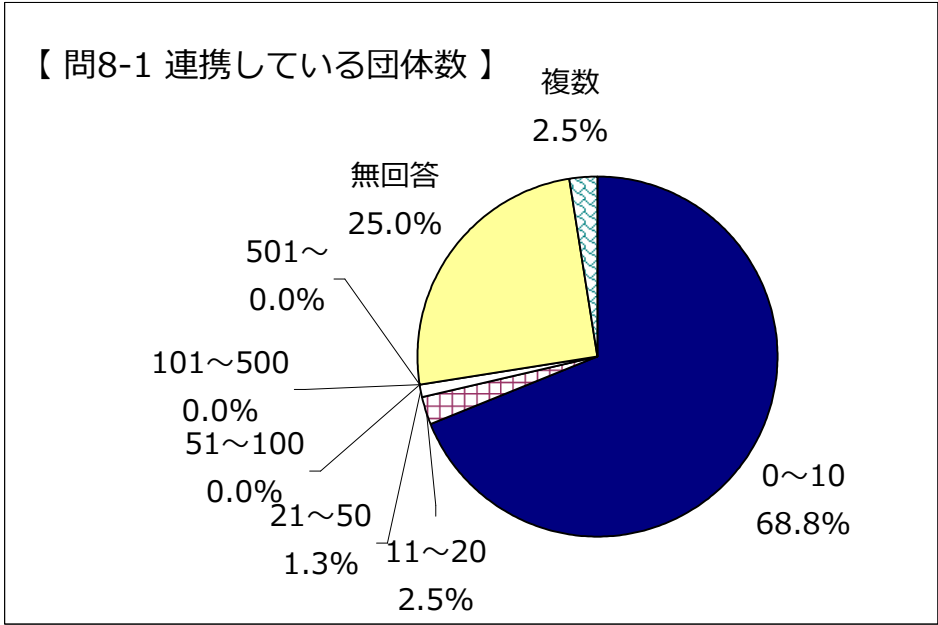
【問8-1】貴団体において、活動のなかで連携・協力をしている団体等がありますか。あてはまるものに○をしてください。

問8-1において、他団体と連携していると回答した団体は70%を超えていた。問8-2において、連携している団体数を訊いたところ、0~10団体と回答した団体が68.8%と最も多かった。



【問8-2】【問8-1】であると答えた方は、連携・協力している団体の数と特に繋がりの深い団体を3つまで記入してください。（「団体」は、市民活動団体以外に、町内会、ボランティア・市民活動サポートセンター、行政組織なども含みます。）

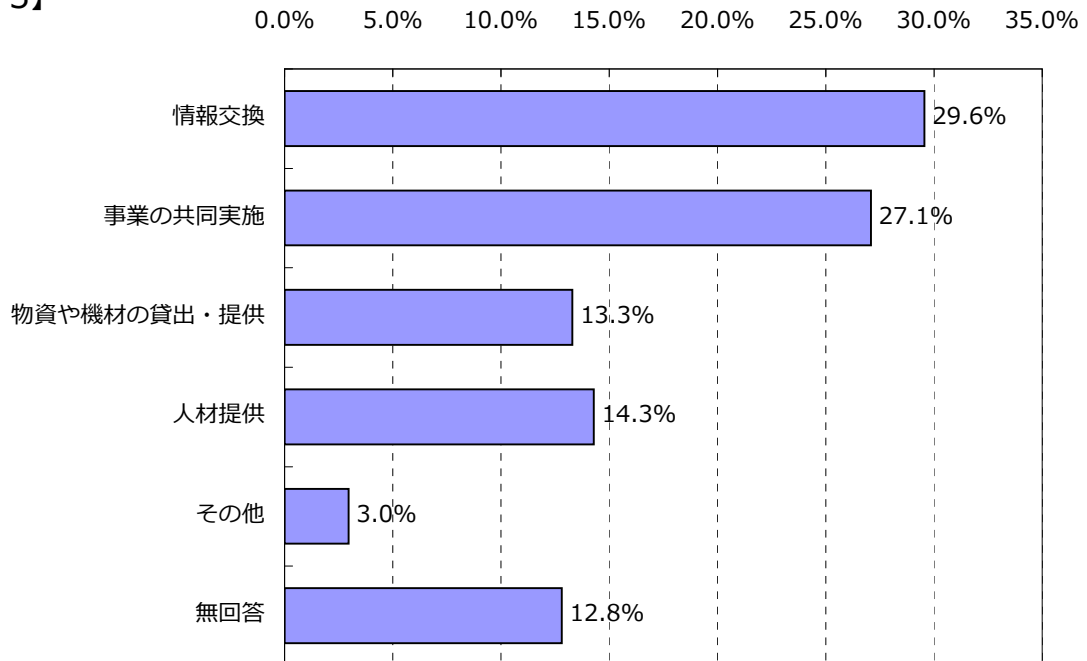
※ 団体名については別紙参照のこと。



【問8-3】 【問8-1】 であると答えた方は、どのようなことで連携・協力をしていますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

「情報交換」「事業の共同実施」が最も多く、続いて「人材提供」や「物資や機材の貸出・提供」であった。その他の中には、「学術研究への協力」や「講師をしてもらっている」、また行政に事務局を置いている等が上げられていた。

【問8-3】



【その他】

- ・ 踊り振り付け，作曲
- ・ 学術研究に協力，イベントに参加（含援助）
- ・ 事務局を行政にお願いしているので大変感謝しています（何事にも）
- ・ 協議会出場等
- ・ 主催講座や毎月の活動で講師として呼んでいただき，場所も提供していただいている。
- ・ あじさい会会長は，大草自治会福祉部の一員として活動。弁当づくりの内，1回は小学校5・6年生，または4年生の手伝いがあり，それぞれの回に担任と校長先生の参加を得ている。

【問8-2】で挙げられた連携団体

NPO法人	協会・協議会	公益・社団・財団法人	行政	教育・研究機関	町内会
7	18	7	8	12	8
NPO法人シアターブ ランニングネット ワーク	三原市社会福祉協議会	青少年育成三原市 民会議本郷支部	秘書広報課	三原市立図書館	町内会連合会
NPO法人ひろしま子 どもコミュニティ ネット	ボランティア・市民活 動サポートセンター	三原青年会議所	環境政策課	大学	町内会
NPO法人 尾道とど う座	三原市ボランティア連 絡協議会	三原市公衛協	青少年女性課	博物館	鷺浦町内会
NPO法人フォレスト サポートクラブ	久井ボランティア連絡 協議会	福山ジョイジョイ ワークたかにし	三原市教育委員会	研究所	自治会
NPO法人 ちゃんく す	三原市福祉のまちづく り推進協議会	三原市手をつなぐ 育成会	三原市社会福祉課 自立支援協議会	県立広島大学三原 キャンパス（作業 療法学科）	大草自治振興会
NPO森のおさるさん	障害者生活支援セン ター ドリームキャッ チャー	手をつなぐ親の会	生涯学習課	児童館	和木自主防災会
NPO法人等 10	安全安心本郷協議会	社会福祉法人 櫻 学園	高齢者相談セン ター	愛媛大学南予水産 研究センター	南方コミュニティ センター
	元気さぎしま協議会	(財)中央森林協 会	地域生活支援セン ター さ・ポート	県立広島大学ボラ ンティア部	自治区
	三原市文化財協会	文化協会・まつだ 財団	観光文化課	国立大学	
	三原観光協会			大草小学校	
	文化協会久井支部			南方小学校	
	大和町文化財保護協会			学校施設	
	視覚障害者協会			福山大学生物工学 科	
	広島県体操協会				
	日本自然保護協会				
	広島県陸上競技協会				
	三原市陸上競技協会				
	三原市身体障害者福祉 協会連合会				
	三原浦崎漁協				
	食生活改善推進連絡協 議会				
	尾三体育指導員協議会				
	地区社協給食サービス ボランティア				
	障害者自立支援協議会				

市民団体		医療・福祉機関	企業
50		7	1
篠笛須波教室	三原ライオンズクラブ	精神科デイケア・医療機関・事務所など	作曲プロダクション
潮風太鼓	三原本郷ライオンズクラブ	里仁会	
みはら歴史と観光の会	三原久井ライオンズクラブ	サンライズ	
呉雅楽会	各女性団体9ヶ	グループホーム	
博雅会	断酒会	三原赤十字	
阿波雅楽会	さざしま物産卸会	福祉施設	
松若流寿恵章会鷺浦舞踏の会	三原市スポーツ少年団	医療	
みらい子育てネット・みはら	サロン		
久井町GGA	お〜ちやる		
世羅町GGA	さざ島を愛するボランティアガイド		
三原市GGA	ほんごうこども図書館		
沼田文化研究会	福山グリーンベル		
久井町郷土文化愛好会	みはらし環境会議		
三原失語症友の会「こだま」	三原やっさ祭り実行委員会		
障害者スポーツ大会	人形劇グループ ゆめふうせん		
みはらウイメンズネットワーク	盲ろう者友の会		
すいすい倶楽部(東広島)	自然観察入門教室		
リバーサイド倶楽部(三原)	ウイッスネットワーク		
ねむの木	各種団体(数百人) 6		
布絵本製作福山	民生委員会		
みどりのはらっぱ	手話サークル「うきしろ」		
Piano・Piano	本郷みどりと水を守る会		
わかば	兎っ兎		
森のようちえん	三原手話サークル		
ピッコロ	わんぱくらんど(子育てサロン)		

【主要な連携団体】

三原市社会福祉協議会 …… 22団体
(本郷・久井・大和地域センター含む)

ボランティア・市民活動サポートセンター
…… 6団体

三原市ボランティア連絡協議会
…… 4団体

みらい子育てネット・みはら …… 3団体

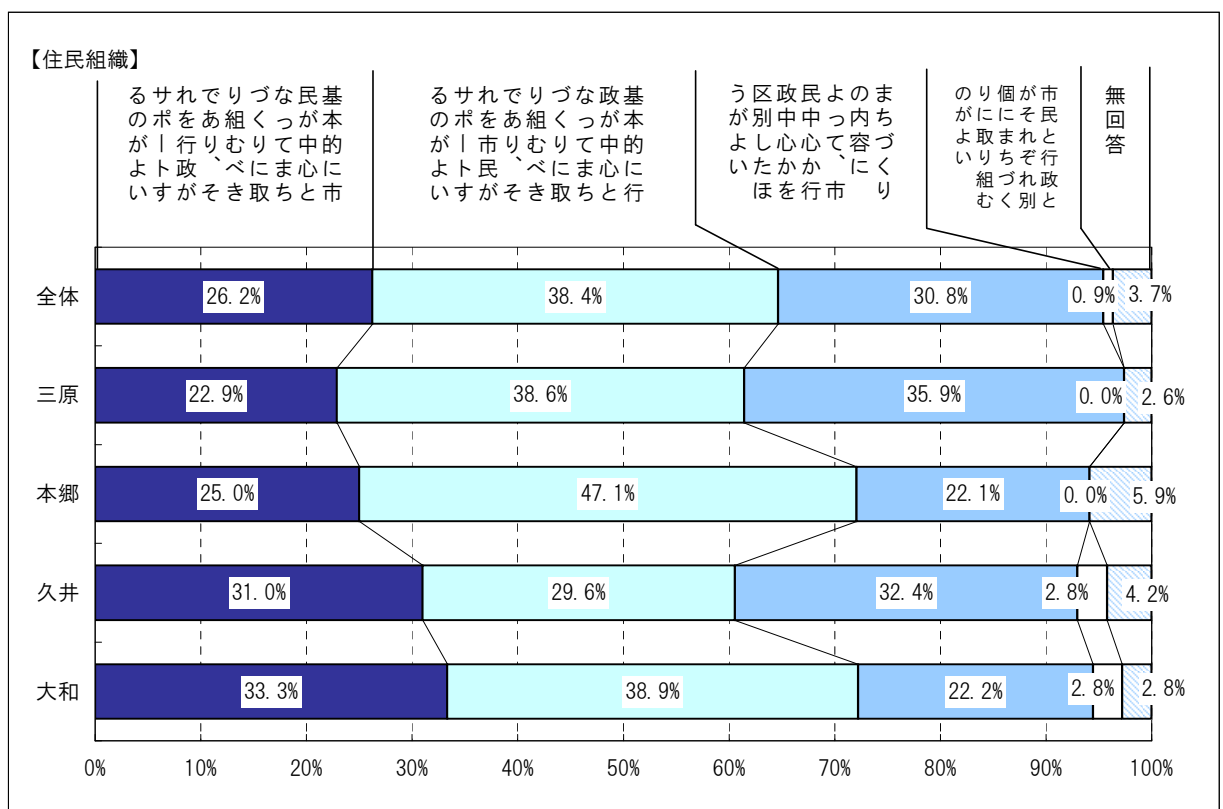
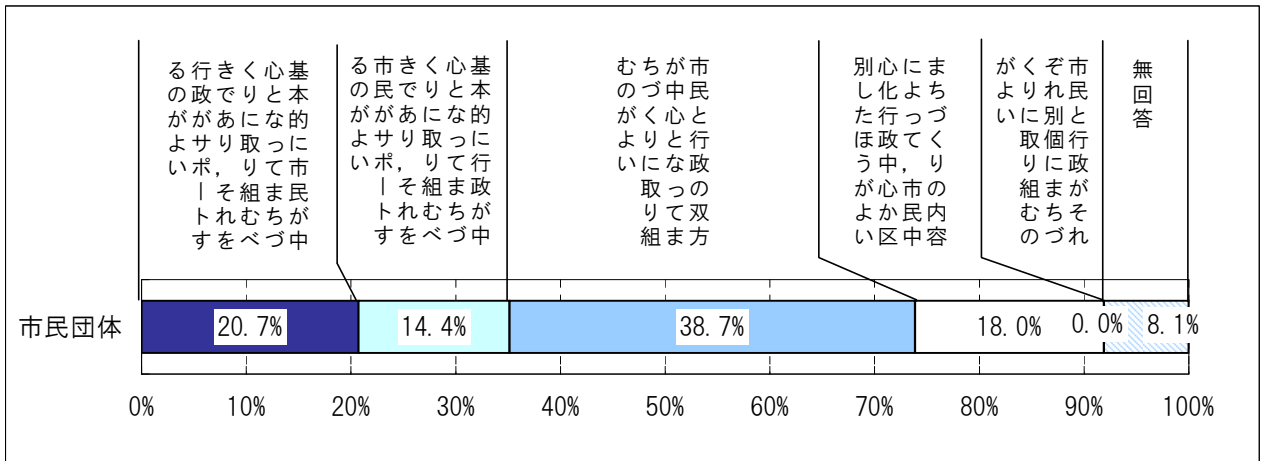
三原市児童館 …… 3団体

県立広島大学 …… 3団体

三原市手をつなぐ育成会 …… 3団体

【問9】三原市のまちづくりについて、「市民と行政との協働」はどうあるべきだと思いますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

問9においては、市民活動団体に向けてのみ「市民と行政の双方が中心となってまちづくりに取り組むのがよい」という選択肢を設けていたが、37.6%と最も回答が多いという結果になった。次に多いのは「基本的に市民が中心となってまちづくりに取り組むべきであり、それを行政がサポートするのがよい」であり、これは住民組織に対するアンケートとは異なった結果となった。



問10 市民協働のまちづくりについて、次の(1)～(4)に関してご意見等をお書きください。

(1) 市民協働のまちづくりに対する期待

【期待する・望むことなど】

①双方の協力に期待する
お互いにもまけるのではなく本当に一緒に考えつっていけるような関係づくりができると良い
市民の側で、努力すべきことであり、行政に過度な期待を寄せることは必要ではない。ただし、行政の有するメディア機能（例市広報など）や、後援、あるいはボランティア団体に対する施設利用料の減免など、行政が民間のボランティアな活動を支援する方法は、たくさんあるのでそれを期待している。
活動団体が主体となって取り組みや活動すべきではありますが、活動団体にまかせきりということではなく、共に汗を流してまちづくりを行っているという姿勢を市民にわかるように、市民が感じるように、期待します
まちづくりは、行政のみ、市民のみでは中々効果をあげる事は出来ない。行政と市民が知恵を出し合い、よりよい三原となることを期待したい。
市民協働をする団体がふえていくことにより、その団体の横のつながりも強化され、複数の団体と行政とが協働できると、よりまちづくりが充実するのではないかと期待しています。
市民・行政が一体となって活動していけば地域の活性化が期待できる
市民と行政が協力して特色のあるまちづくりが出来ることを期待。
今後のまちづくりについては地域の文化・歴史・実情等は地域住民が一番理解しているのを目新しい取り組みを模索するよりも地域資源を掘り起こすことによりいくらかでも町づくりはでき気は取り戻せるが住民主導の粘り強さと行政のサポートが不可欠である
無縁社会・無縁時代と言われた今日今ごろ協働のまちづくり活動今地域がたちあがってほしい。もっと対話の場を作って全然少ないのでふやしてほしい
地域課題の解決や魅力ある「まちづくり」には、行政と地域住民が一体となって取組む事が良作だと思う。行政が手がけにくい事業について、市民協働で手がけて推進すべきだと思う。行政指導や情報交換（提供）し、双方が理解しながら取組むべきだ。経費については、行政に対し、事業の管理運営費の最低限の資金助成をしてほしい。
市と行政が話し合うなかで、本当にやるべき順位を考えられるのではないかなと思う
地域住民と共に活動出来るまちづくりだと思います
市民の声がまちづくりに反映されると住みやすい町らしにつながると思うのでこれからも行政と一緒に取り組んでいけるのが理想だと思います
暮らし易い美しいまちを創るために市民主導型の活動が活発になる活動助成金の膨らむことを期待する

②行政に期待する

まちづくりの団体に年間最低でも一律3万円程度の援助を期待したい
市民の多くは「街が活気づいていると、自分も家族も楽しく感じる」と思います。そのためには、「各年齢層の意見を聴ける場」を行政が積極的に設けて、市民が気軽に参加できるチャンスを増やせば、いくつもの輪ができ、その輪での活動で、日ごろ思っていること、やりたいこと、困っていることを解決しながら、地域や個人間の絆を深めればと思います。
自分達が参画してよりよいまちづくりをする。そのためには、よきアドバイザーが必要。行政は単なる立会人であってはならない。適切な道先案内人があって、参画者も安心して協働出来ます。
市民ニーズはますます多様化複雑化高齢化している。二つの大震災にあいnpo・ボランティアの存在性をみな感じたと思う。サービスの中で産業として成り立つものは、社会化されてゆくだろうが、ニーズの社会化の隙間を埋めるものとしてnpoやボランティア活動への期待はますます高まる。従って社会で認知されたnpoや団体活動を支援する。協働のまちづくりに期待するというより、最重要課題として取組んでほしい。女性の能力を発揮する場として大いに期待している。
三原市の行政が中心となり、隣町市を研修して、活発に動いてほしい。何か沈んだ市と三原市は元気がないとも言われ、知人から評価が低い。べつに町の将来像が誰にもないし、さみしいので、委員会を設置してほしい。”住みやすい町”をめざして、時に専門家を招いて勉強会はいかがでしょう。その為にも行政職員は努力してほしい。特に若い力・エネルギーを希望します。
行政の情報公開 市民の意見が反映されたまちづくりに期待します
市民が中心に活動が持続出来れば良いが次の担い手の育成などの団体も問題を抱えている様に思われる。理想的にはよい話であるが行政がかなりバックアップしてもらわなければ持続がむづかしくなる
不況や少子化などにより、三原市民の数は減少傾向にある今、住みやすく魅力ある三原、子育てしやすい三原を目指して行政と市民が情報交換、協働のまちづくりを活性化していく必要があると思います。今、市民が必要としている事は何か、どんな要望、声があがっているかを行政側に伝えられる機械を増やし、実際に活動・実現に向けてサポート体制、共同して取組む体制を作っていただきたいです。市民だけで活動するには、場所、経費等で行き詰まり、限界が生じるため、行政のお力添えが必要です。協働のまちづくりが活発化すれば市民のまちづくりに対する意識も向上し、より住みやすい三原になると期待されます。
目に見えやすい事業だけでなく、弱い立場の市民の視点に立った地道な活動の支援も視野に入れて欲しい
市民とは、すべての人が対象だと思うので、一部の人がかたよらないようにしてほしい
活動中に市職員の方、参加して欲しい。活動を理解出来ると思うし、市民の生の声を聞ける。ふれあいになる。又、団体の悩み、方法等のアドバイスも受けてたい。
1日も速く市民協働まちづくりが出来る様期待します。頑張ってください。

③市民の意識の向上に期待する

町民の美化，環境意識

三原市の今後に対するビジョンを持ち，まちづくりに積極的に参加する市民が増えることを期待します。

経済成長とともにお金まかせ，行政まかせになってしまった暮らしを自分たちの手でつくり直していくこと。新しい価値観の創造。

市民の参画意識の高揚

市民の側の活動がより活発化ようになる

市民の参加が増えることで，地域社会に助け合いの輪が広がり活性化し，三原のまちも活性化することを期待している。

④その他

三原ならではの特徴あるまちづくり

三原のまちには他市にはないよいものがまだまだ沢山あります。それらをもっと大切にしつつ今後もまちづくりに活かしたいと思います。

三原市は，大きな都市ではないので，市民協働というのは難しくないように思えます。どんな年齢層の人も住んでいて快適と思える街づくりを期待します。

大いに期待している

自分たちの住んでいる町が元気になり，若者が住みたいと思えるふるさとづくりになればと期待する。

やっぱりきれいな町すばらしいと思うので実現出来れば

地域の事は，そこそこでちがう所があると思います。助け合いも色々と変わっているので何が必要とされているか考え動いて活動して行くのが良いと思います。

これから増々暮らしやすいまちづくりに期待しています。

安心安全に暮らせるまちづくり。地域，まちなどに関心を持つまちづくり

今後も地方分権が進み，ますます自分たちのまちのことは自分たちで考えていかなければいけない状況になってくると思います。これをチャンスと捉えて，システムづくりをしっかりとやっていけば都市間競争にもついていけるのでは

10万都市にふさわしい安心・安全の町づくりを望む

三原市で生まれてよかったなという町づくりを望んでいます

三原市内のマンパワー発掘

様々な分野での取組みを通しバランスのとれた施策の実現（例えば子育てだけに力を入れるのではなく高齢者や学童など様々な対象者であり，福祉のみならず教育・環境など多方面）

①皆で町づくりを行い，子ども達が三原に住みたいと思えるように頑張りたいです。②三原を日本一有名な町にしたいです。

市民のためになる事業・活動が行われるよう期待します。

地域住民が高齢化しているので，協働のまちづくりに期待する。

活動する中で感じるのはネットワークをつなげていくことはずいぶんできてきているように思います。年に一回でもいいので飲み会みたいなことでできればいいように思いました

税収が限られている中，市民活動に必要な事を効率的に実施するには市民協働，行政との協働は不可欠である

市民協働のまちづくりと言うが実際にはそのことを十分に理解している人は少ないと思う。会員の一人一人は活動には参加してもらえが他の行事，会議等にはなかなか参加してもらえない事がある。役員の負担が多くなっている。まちづくりには期待するが，負担は軽減してほしい

駅前が寂しくなっているので，子供から大人まで自由に使えるスペースができればいいと思う。サンシーも決まった人ばかり使用しているような気がします。町おこしの野菜の販売等して活気が出てきたのは評価します

21年度から取り組んだあさり養殖は市・農林水産課との連携で4つの支援団体の指導を受け，初年度は失敗したものの，現在は順調な生育を遂げている。現在市行政の助成を受け事業推進しているが23年度の助成が不透明な状況にある。鷺島の一大水産資源の確保に努め潮干狩等，観光スポットにしていきたい。

【期待しない・不安など】

①協働の中身が見えない

声だけで終わっているように思う。いくら良い事・物があっても現実性がともなっていない。障害者に対してもかけ声だけの対策で終り，前進がない。これだけの事などを期待したいと思うし，必ずやってもらいたい。

市民協働のまちづくりは，あくまで行政主導の感があり，一般市民のすみずみまで理解されないと思う。

三原市が，みなさん健康で明るい住みよい街になることを期待しています。市民協働のまちづくりの委員会を立ち上げていくほど，会合を持ったかは知らないがいっこうに前が見えないのが現状と違いますか？幾度いい話を聞かされても，そのよい話が前に進んでいないように思われます。このことが，不安であります。今の様子では，三原市も，これまでかと考えています。

②その他

旧三原市と三町の間で活動の温度差が顕著である。（旧三町では、「コミュニティセンター」を中心としたまちづくりが盛んである。）

個人でやっている家庭文庫なので、活動をしていても協働するのは難しい気がします。つなごうねっととうが充実して広報が広がると幅広く参加していただけたらと思います。

余り期待しない

余りない

特にありません

行政をとおして私たちのグループ活動内容を知っていますか。
協働のまちづくりを推進するには、それぞれのボランティアが活動していることに多少の支援を考えられませんか。

私たちのボランティア活動について、市議を始め、市職員が活動内容を知っていますか。
協働のまちづくりを目指すのであれば、まずは活動内容を知ることからはじめては！例えば、ボランティア会議等で必要な場所の提供さえ、断られる状況を知っていますか。

(2) 市民協働のまちづくりに対するアドバイス・要望

【アドバイス】

①行政と市民の関わりについて

定期的に市と各団体責任者との会合を開催して、各々の意見や思いを共有しながら、「市民協働のまちづくり」を推進する。

「まちづくり推進課」が町の責任者等と情報交換の場を増やす

行政にとって都合の良い「市民協働」にならないようにしてほしい。協働のプロセスにおける合意形成はとても大変な事ではあるが、行政の考え、方針の押し付けにならないよう充分な対話が必要。場合によっては行政が先見性を発揮し市民を啓発、引っ張っていく必要があるが、その場合も、「行動」を促すまたは求めるだけでなく、現状や目的・目標等を明確にして欲しい。情報をしっかりオープンに！

各施策の計画段階から専門分野の団体や業界団体等との意見交換会を積極的に行い費用対効果（行政コスト）のバランスを意識した上で真に市民が望む計画を作ってほしい。

今までのような市民が行政へあれもこれもしてほしいなどといった時代のままでは、協働が成立しません。とにかく市民に考えていただくことを徹底してほしいと思います。行政の方と市民と一緒に三原の将来を考えることが大事だと思います。市民でできることは市民でやっていければいいと思います。

市民協働が気軽に出来たり、色々な学ぶ場が増えると、小さな活動も充実し、やがて手をつなぎ出来ることもあると思います。

市民として出来る事、行政がやるべき事を明確にしてこそ、協働といえるのでは。行政にたよらない市民と、市民の声に耳をかたむける行政一人一人の意識をもアップさせる事

市民が協働のまちづくりに少しでもかかわりを持つために、地域社会にまちづくりへの参画を促す施策が必要と思う。意識が低いので改善が必要

②人材・資金について

ボランティア活動をしていて思うのは、活動している人が重複していることがとても多いということです。一部の人が熱意を持って非常に積極的に動いている感じです。

興味がある人、活動する人の幅がもっと広がって大きく盛り上がって行くと全体の盛り上がりも期待できると思います。

提出書類等はできるだけ簡易にして、補助的なことはスムーズに受けられるようにしてあげること。補助金についても活動に必要な支出については最大限認めてあげるように努力すべきだ。制限をゆるやかに。

まちづくり助成制度は活動のためにとっても役立たせてもらい助かりました。回数の制限をなくして、また助成で活動をしたいです。活動資金がたいへん不足しています

少子高齢化が進んでいる中で特に高齢者が参画し生きがいのある施策の推進が望まれるのではないかと（高齢者が参画している活動に生きがいをもてるようにね）

かつて三原を活気づかせた、当時の若者は、今高齢化して意欲を失っています。でも、まだ残っているパワーをかき集めれば、昔を思い立ち上がるのではないのでしょうか。三原には、数多くの史跡や、古文書、自然、そして各自が育んだ多くの知識と経験があり、力を合わせて綱を縫えば、きっと素晴らしい物が出来るでしょう。その姿を若い人、子供達が見て後世に伝えてくれることでしよう。

金（助成金）だけ出してどうぞ自由にやって下さいと言う事のない様

人をかけお金をかけたり立つ事もありません

③その他

私は、NPO会計税務専門家ネットワークという団体に所属しています。昨年7月にNPO法人会計基準を策定しました所の専門委員です。この会計基準は、たいへん平易なものであり、子ども会や老人会などでも、使っていただければ、比較可能性が高まり、行政がボランティア活動を評価する際や、助成先を決定する際の目安となります。是非、会計基準の普及支援に向けて協力ください。

観光資源の有効活用

神明祭・やっさ祭等の祭りは、ある程度集客効果をあげているが・

PR不足か折角の多島美、史跡（三原城跡・桜山、寺）等が充分な集客力をあげていない。

市民協働をさせてもらった団体が、どんどんよかった事をアピールして、協働という言葉を定着させることが第1歩だと思いません。
各町内会別に地域たちあがれ隊を作り行動力・実行力のある人材を集めてほしい。集まった中で組織作りから始めたらいい。そこに行政の知恵が必要。行政主導でなく地域主導で行政はアドバイスの新しい組織が今なにか必要と思われる
事業内容によっては、もっと広く会議を起こし、今、市民のために何をなすべきか！何が急務なのか等検討しながら取組むべきだと思う。 課題やテーマは、もっと幅広く考え、企画立案されたい。
昔のお互い様がなくなってきている今では、コミセン活動が出てきている市はよい事だと思います。ほっとは一との活用ももっと広めるのが良いと思います。(家から出にくい人のために)
地域にある歴史、文化、自然、産業などに接する学べるような取組を行うことで地域(コミュニティ)への関心を高める仕組み(まちづくり)
行政の話し合いで行事が重ならないように調整をとる必要があるのでは
市民の声、要望、現在の状況の報告等、行政側に伝えられる体制作り 活動団体に対するサポート、助成 子どもの検診の時にベビープログラム(みらい子育てネット・みはらやO~chal、ひろしま子ども財団主催で実施)を取組むなど、現在行われている行政の流れの中に取り入れていただきたい。 市民協働のまちづくりの活動内容、実施状況など、広く知っていただくための広報活動
調整は大変だと思いますが、頑張ってください。
情報の開示・公開
実際に動く・行動する、地元住民と具体的に活動するという意欲に欠け、印刷物のみでPRしている感があり、空回りしているのではないか。
三原市が、いくら良い話を並べても現実性のない掛け声だけで終わっているように感じている。もっと掛け声だけでなく、一つでもよいので前進するようなことを要望する。駅前に市庁舎建設については、反対派市内が三原市が本当に元気になるような娯楽施設・映画館・レストランなどを入れた、その上に駐車場の建設計画など市民全体の期待にこたえる市庁舎建設のアドバイスをしたい
市民も企業も同じ立場で話をしたらおもしろいアイデアや三原市が活気ある町になっていくような気がするのですが。これからも市広報や三原CATVマスコミなどで市の動きを伝えてほしいです。そうすることでみなさんの関心が高くなって意見交換が増えたいと思います。子どもの声もたくさんきいてみたいです

【要望】

子育てしやすくバリアフリーのまちづくり
資金名、物資面での補助の簡素化を望む
・市の職員の方も時には団体の活動に参加してほしい ・活動する中で必ずかかる経費があります。その経費をお願いしたい(例えば草刈機等の燃料代)
成果が見えにくいまちづくりを進めないと途中切れになりそうです。 まちづくりに若者の参加が少ない。若い世代に重責(リーダー)を持ってもらえる取り組みを考えてほしい。
助成制度・サポート制度を充実してほしい。行政の部署によって協働の意識が違ってしまう。全般的に職員の意識改革も必要
将来の展望が見えにくい。もっと長いスパンで市の方向性を示してほしい。
日本の伝統文化を取り入れた特色のあるまちづくり
活動に対する相談窓口が知りたい
まちづくりに限りませんが、行政側の担当者は、最少でも5年間継続してほしい。「石の上にも3年」やはりよいアイデアを出すためには、経験の積み重ねが必要です。
諸団体との連携を取れる様な企画や情報交換の場を設けてもらいたい
市職員の方が活動に参加出来る、サポート出来る体制を期待します。時間単位でもいい、調整してほしい。
若者と行政と町内会と行政と一体となり、未来の三原市展望をしっかりと考えてほしい。10年先の方向付けをして進めてほしい。目先だけで評価が下 観光にも地域的にも努力して、他都市と比べて努力してほしい。市の行政に望む。商工会議所がもっとがんばってほしい。三原市の名が全国には無名である。
関係者だけしか分からないと言う状態にならないように
行政各課の協働推進 コーディネーターの早期設置
新しく市役所を駅前にこしらえるとの事ですが、何階だてのものをこしらえるか分からないが、この中に必ず娯楽施設、又ボーリング場とか映画館などを出来たら考えてほしいと思います。そうする事によってにぎやかな三原市になるものと期待しています。そうでなければ三原市もこれ以上良くならないのではと思っています。
この地域は、高齢者が多く若者世代が減少していることで、難しい面もあり、行政が指導してくださるとよいと思います。
皆が気らくに出来る様に

街中が平等にして下さるのを希望します。
最重要課題として取組んでほしい 女性が活躍できる場が確保されるよう要望したい。
「市民登山」平体協主催に公報に掲載するだけでなく、もっと関心を持っていただきたく。例えば開催当日に市担当者が挨拶に見えるとか…。里山整備に多少でも予算をつけていただくとか。
要望・アドバイスになるかわかりませんが、年齢別のアンケート。どうしてほしいのか、一般の人にもとる必要があると思いません。どういう町にしたいとか…。

【その他】

現在は別がない。アドバイスも指導もない
三原は何を中心に特徴を出すのか。心棒がいまいち見えない。協働活動の場だけが同じようなことで空転していないか
よくわかりません
一つの場所に行けば物事（公共書類）が済まされるように。場所としては中央公民館が良いと思います。ポプラの木の間に桜の木はどうですか。ベンチがあればうれしいです。

(3) 市民協働のまちづくりに対する不安・不満

① 行政からの押し付け感

行政の都合の良いように利用されている気がする。
行政が一方的に（勝手）課題やテーマを設定し、その型に市民をはめようとしている。これは、一考をようすと思う。行政と市民の双方が話し合いをして課題整理し、重要課題に取組み推進すべきだと思う。 資金的な問題では、多額の経費が必要な事業には、市民に幾ら大切な事業であっても、手を出すべきではないのか？な～と思う。
協働の理念が徹底されず市民のみが汗をかき負担を強いられるのではないかと お互いの強みと弱みを本音で出し合える関係が築けるか？ お互いがおまかせになって前に進まないこと

② 周知・理解度

市民協働のまちづくりは、まだまだ広く認識されていないように思う
市民協働まちづくりの意味が良く判らない
やはりまだ理解が出来ていない市民に対しての説明が徹底していないこと。 協働することにより、しっかりと成果が出せているのか取り組み方を団体として話しこむ必要があると思います。
市民に周知理解を求め、なぜ必要なのか、取り組みの一つでも参加して、市民意識の向上をしないと、まちづくりに不満ばかりが先行して行きそう。
・情報公開提供不足、活動への参加に興味をもつように情報の提供や意識改革の必要があるのでは（参加してみると意外によかった。また参加したいという意見が多いと思うので、参加させる、してもらうまでの工夫が必要と思う 残念ながらまだまだ「協働」の市民意識が浸透していないように思います。もっと市民参画を求めてみてはどうでしょう。
自分（個人）がどのようにかかわれば良いか、具体的に何をするのかわからない。組織が無いと何も出来ない
アンケートを実施することはとても良いことだと思いますが、その内容、要望等に対して実際に行政側がどのように考え、実施・変更したのか、これからどのように取り入れて行くか等、市民側にわかりやすく説明・報告をしていただきたい。 現在の現場、生の声を行政側はどう届けたらよいのか、助けてほしいときに、どこに相談したらよいのか、よくわかりません。定期的にそのような体制についても情報を届けてもらいたいです。
あまりわかりません
会合は幾度かしていると思うが、目に見えるような市民協働のまちづくりになっていないような気がします。このような事では市民協働のまちづくりに対して、不安も不案(?)も多くあります。市民に本当に分かるようなまちづくりが必要ではないのでは。

③ 過疎化・高齢化・人材不足

三原で子育てをしてきて、とても過ごしやすい街だと感じています。小さい子どもには、のんびりしていい所ですが、中・高・大学生にとっては、どうでしょうか。若者が活躍できる場、自分たちで盛り上げたいと思うようなチャンスがほとんど無いことが物足りないですね。
現在、三原市は過疎化が進んでおり、将来が不安である。官民一体となって対策を講じる必要がある。
アンケートでもお答えしたように若い人の参加（50才以下）がほとんどいないので将来が不安である
高齢化が進み、活動が停滞しそう。事業には参加してくれるが役員になりてがなく将来の活動が不安
若い人が学業専念のためか、活動の内容が高齢者の集いになる傾向が強い

<p>しっかりした行政のリーダー、市民のリーダーがいないので心配で不安です。 三原市に元気を取り戻し、若い人の働く所が多くあれば良いが、大学を卒業しても地元に戻らないので、高齢化のみ進み心配です。就職の場所、大企業誘致など…行政が力を出してほしい。</p>
<p>他の組織との兼務が多く事業が重なる為充分な活動ができない</p>
<p>三原市程教育資源・社会資源・自然資源・交通資源・歴史・文化資源の恵まれた10万都市は他県には見られない。キーポイントは人口定住減少で都市機能のまちづくりは過疎となることから10万人以上の定住に向けてコマの心棒は何か！</p>
<p>皆さん、自分の生活が精一杯なのでなかなかボランティア活動に参加してもらえません。</p>
<p>地域の人々減少、老化現象が活動の足を鈍らせる不安がある</p>
<p>若い人に話すこともしないといけないのに何々伝えていくことができない（近所にいないとか、仕事や趣味で忙しいとかで）</p>

<p>④ その他</p>
<p>学校や施設へのお出前講座やイベントのための費用の調達</p>
<p>地域コミセンの活動に不満有り。組織人選に？ 行事が決まり決まった1回きりで終わっている。まずコミセン活動を活発に推進出来る組織を作る事</p>
<p>市民の多くは、参加したいが交通手段が無い。知った人がいない。経験が無いと思ひ込みがちです。 高齢者バスを2段階（近距離：50円、遠距離：100円）にしたらどうでしょう。 バスが通らない所は、本数を少なくしてでも、既存のコースを延長して通せないだろうか。 私たちが催し物をして、口コミだけでは集まりが悪い。広報みはら、新聞（お悔やみ同様）に広告を出せたいだろうか。</p>
<p>毎年一歩一歩前進すればよいと思います。</p>
<p>活動するには、どうしても物など必要です。自分で持ち出しばかりでは長続きしません。</p>
<p>これらの活動がどのように進むのか先が見えないので不安</p>
<p>市民自治組織において、防災・福祉など充実した活動が出来つつあることは良いことだが、その中であって女性の活躍の場が限定（炊き出し・食事作りなど）される傾向がある。</p>
<p>市が企画・主催には力を入れるが、市民協働の事業にはあまり関心がないように思われる</p>
<p>議会答弁などでよく耳にするセリフ「(市民に)説明して理解を求める。」住民の反対がある場合などに言われますが、なぜ反対なのか不満なのか、それを解消・軽減するためにとれる策はあるのか…等々しっかり検討していただきたいですし、その検討プロセスをオープンにしてほしい</p>
<p>活動事業を継続して行く為には市も継続して支援、参加して欲しい。そしてその事業を発展させ、次へのステップにして行く為に、協働を得たい</p>
<p>市職員は仕事上ではよく市民協働というがいざ一地域住民となったときには協力的でない人も結構多いのではないかという不満がある</p>
<p>国・地方自治体も財政難に直面している。今後さらに厳しくなるものと思われます。他の「マネ」をするのではなく、地域に合った独自のものを創造し、長期的な効果を検証することが必要と思われます。</p>
<p>わたしも、まっすぐ推進協の委員ですが、市民協働のまちづくりもこれといった進展がみられないのが現状です。何か先が現実的に、見えるのがこのような会の発展でないだろうかと不安と不満があり、わたし自身もこのような役をしたくないのが事実です。幾度も言いますが、いくら立派な物ができて、利用できなかつたら何にもなりませんよ？</p>
<p>中心市街地活性化などにも市民協働なのでフォーラムなど参加し易くする必要があるのではないかと？商売人と市民活動家・起業家はつなげる必要があると思います。</p>
<p>地域の細い問題について、民生委員や福祉課・社協などに話しても、それぞれの対応に差や、とらえ方に違いがある。最終的には“個人情報”やプライバシーというワクで囲われ進展しにくい。結局は近隣住民が困り続けている現実を良く耳にする。一歩踏み込んだ、行政的な暖かな支援が欲しい</p>
<p>かたよりが…。</p>
<p>三原市民の意識レベル←協働に対する認識</p>
<p>継続して行く事が大事なので未来に向けて若い力を育てて行く事を大事にしているか？どの様な方法があるのか教えて下さい</p>
<p>個人でやっている、私が出来なくなると終わってしまいます。そうならないためにも、一緒にやってくれる方をと思いますが、自宅というのは、他の方というのは難しいところがあるかもしれません。</p>

(4) その他

<p>【協働のまちづくりについて】</p>
<p>① 要望</p>
<p>サン・シー・プラザ2階の三原城模型展示所の拡充 三原城跡をガイドした後、辰川氏作の模型をみると良くわかり、喜ばれるが、若干拡張して写真、説明文等を増し、展示場を充実していただければと思います。</p>
<p>一時、生涯学習が唱えられていたが現在は余り聞かない。市民協働のまちづくりも一時的に終わらないように期待する。</p>

市民協働のまちづくりについては、基本的には、市民はボランティア精神で、心身の提供は必要だと思うが、最低必要の経費については、行政が負担すべきだと思う。市民にとって大切な事業に対しては、積極的に取組んでほしい。
自治組織と市民活動団体との接点が見当たらない。 お互いに成り立つ活動であってほしい。 推進委員の存在が今一見えてこない。リーダーシップをとって各分野の先導役としてほしい。
20~40代のリーダーがいると、市商工会も成長してくると思う。数は、力なりで数も必要！ 三原やっさ祭りも予算の関係もあり、盛り上がり低く、品格のない踊り手、若者も多いので悲しい。！ 花火もさみしい。他都市の祭りと比べてさみしい。城下町、三原市として何か行政も考えて実行してほしい。
みはら広報をどんどん活用して下さい。市民に向けて情報を広げて行って下さい
小さな団体、NPOなど多くあるが、時には行政がリーダーとなり、大きな事業展開、イベントもできるのでは。行政の方には特に、色々な活動に参加してほしいです
市民協働のまちづくりについて具体的なイメージがよくわからないので意見がいえません。このことについて市民にもっとくわしく情報発信したり説明会を開いてくだされば参加してみたいと思っています。

②アドバイス

協働の意味の理解が行政と市民では違います。⇒基本的には行政は助成金を出すだけで良いと思います。 年1回は、ボランティアな活動をする団体を集めてレセプションがあってもよいのではないのでしょうか。例えば、ポポロのハワイ工を使うなどして、ハレの場を作ってはどうでしょうか。 社会貢献をする人は、皆本当に多忙ですが、それをすばらしいことであると、認め合う・ほめたたえる場が無いことが寂しいですね。ご相談くだされば、アドバイスをいたしますよ。
行政と地域住民の対話多くもってはいかがでしょうか。中間役の職員何しとる。三原市のまちづくりの夢がほしい
旧市内は、8時過ぎると、ぐっと人通りが少ない。勤め帰りの車か、子供の塾送迎の車である。東町、本町、西町、港町の空家に10時ごろまで電灯をつけて解放したらどうでしょう。きっとさびしさも緩和され人が集まると思います。 「まちづくりをしている仲間」との交流がしたいですが、その様なプランは持てませんか。 「まちづくり活動ルーム」が空室の事が多く見受けられますが、市として活用するつもりは？
住人の心がまえについて話し合うこと。 日常生活で近所との協働の必要性の話し合いの場があるとよい。
ボランティアをする人のために、ポイント制(名称は別として)があると私たちが高齢者施設にお世話になる時に少しでも還元してほしいと思います。
「街づくり推進課」が募集をされている「市民提案型協働事業」がどのくらい提案数が出ているのか不明ですが、各ボランティア団体等に直接問い合わせ等、足でかせく活動をすればどうでしょうか。
行政機関はたくさんの情報が集まる場所だと思います。行政職員のみなさんは、〇〇と△△をつないだら面白そう！うまくいきそう！という視点・発想を持ち、良いつなぎ役となってほしいです！
お金(予算)をあまりかけないで活動できることを考えていくことが大切と思われる
各町内会に強制的にまちづくり組織を一つ作り活動運営のノウハウの勉強も含めきっかけ作りをする。それにより市民末端まで「協働」の意味が浸透する
行政が協働のまちづくりをやっている事を地域社会はあまり知っていないので、具体的な行動が生まれない。 何も変わってこない、何をどうするのか、どうしようとしているのか、具体的に示す必要があると思います。
毎年やっさ祭りの時にエコレンジャーの活動に参加して思う事ですが、やっさ祭りは三原市をあげての一大イベントの1つですが、主催が市ではないとしても、市の職員の方に、もっとサポートしていただきたいと思います。市民が自分の意志でボランティア活動に参加する事はとても大切なことですが、中心になって活動している団体の負担があまりにも大きすぎると思います。市として協賛金を出して終わりではなく、事務的な仕事、当日の人材提供などもっと目に見える形でのサポートをしていただけるとありがたいです。お祭りの踊って楽しそうな写真はかりではなく、お祭りが終わったあとのゴミの量や、花火会場の沼田川河川敷のひどい状態を広報に載せるなどして、もっと意識改革できるようにしてほしいです
市民1人1人が安心してこの三原市で生活できるようになったらいいと思います。そのためには市民の思っている事や考えている事を言える機会・場所があればいいと思います。

③その他

市民の声を聞いて頂ける機会は増えてきており、良いことと思います。これからも広くきいて頂き、まちづくりに反映して頂きたくお願いします。
活動に対して保健は出ないのですか？(一楽池ふれあいの会の活動は公園の整備が主で、草刈機時にはチェーンソーを使用します)
此の様なアンケートを出しても実際に見学していないので文書だけでは何も判らないと思う
市民協働といってもそもそも何をしたいのかわからない。市民一人一人では何をしてほしいのかしたらよいのかわからない
市内の小中学校から総合学習として手話の体験授業の依頼が多くあり、平日に7・8人の会員を派遣していますが、依頼するサークル代表として、なかなか心苦しいところがあります。ボランティア基金から、1人900円頂くことがあります。それも無い時が多いです。貴重な時間、交通費を自己負担してもらっています。
当法人の活動で市民協働がどう実現できるのかイメージがきたい為、意見が無いのが実情です。
市民協働ホームページが利用できて、情報共有等について大変便利になりました
(2, 3に共通して)・私達ひとり一人が本当に住み良い町暮らし易い町を考えれば何がしかの協働に繋がると思われるが、なさない事に若い人になればなるほどどこか他人事様に見受けられる ・定年を迎えられた方たちに積極的に地域の協働まちづくりに参画してもらう方策を考えれば・・・
私たち断酒会は、まちづくりには役立てないかも知れませんが、三原市から酒害を無くし、明るいまちづくりに協力します。

<p>みはら市民協働サイト「つなごうねっと」を立ち上げてくださったおかげで、母親が家にいても情報を取り入れやすくなりました。ただ、まだまだ知らない方もたくさんいらっしゃるので、特に他県他市より引越された方に対しても情報提供していただきたいです。（登録変更する際に少しサイト自体動きにくいときがあります、どうしてでしょう）子育て支援の場が広がり、三原に新たに來られた母親、出産し母親になった方から「三原って子育てに協力的ですね。とても助かります。」との声がかかれるようになりました。本当にありがたいです。これからも、行政と市民が協力し合い、より住みやすい、育児しやすい三原に行きたいです。</p>
<p>いろいろとえらそうに書きましたが行政には大変感謝しております。今までの行政は支援する側で上の立場であったところから市民と横並びの位置に立場を変える…これは本当に大きな変化だと思います。私たちも信頼していただけるようしっかり取り組みたいと思っています。</p>
<p>大変申し訳ございませんが、自分のグループが協働まちづくりのメンバーに入っていることすら知りませんでした。どういう組織体で何をどのようにとりくむために自分達がどのようにかかわっていけばいいのか全く理解出来ていません。まず組織体(図)を教えてくださいたいことと、組織全体会合でも開催して頂き、遅ればせながら、目的意識をもって参加させて頂きたいです。理解していないので、勝手なことを言って申し訳ございません。よろしくお願い致します。</p>
<p>私は、あじさいの会に入会して4年目で勉強不足なのに会長を引き受けざるを得ませんでした。お答えがうまくできません。すいません。勉強不足です。</p>
<p>これからの高齢化社会において、市民協働のまちづくりは、ぜひとも必要だと思います。まだまだ若者たちの協力が得られません。若い人たちは皆、仕事をしておられるので、大変なのでしょうか。私たちも呼びかけが必要と考えます。</p>
<p>知る限りでは今の現況に不満はありません。現在の状況にて良いのではないかと思います。</p>
<p>助成金の対象に文化、芸術部門も追加して頂きたい。事業を続ける為の経費の不安が悩み。事業はあくまでも無料にこだわり、気軽に楽しめる。又、出演者に支援したい為の経費。</p>
<p>鷺島音頭の創出については第一部門の成果としてすでに広く啓発している。現在白鷺の舞の作曲中であるが今年度は申請もれ、又24年度から事業が変わるので助成が受けられない状況にある。第一部門の報告会で発表したので23年事業については何らかの連絡があると思っていた。とても残念に思っているがやるしかないと思っている。いつの時代も個性あるまちづくりは大事にしてほしい。</p>

【その他】

<p>この度、三原バイパスエゲダニのトンネルで落下物にぶつかり車がこわれ、その日バイパス管理者に話をした結果、調べて下さいました。その結果、何もなかったとの連絡がありました。何もなかったら車がこわれる事もないはず。これがケガをしていたら、新聞などにものって三原はいいかげんなと話が出るころでした。このようないいかげんな管理を受けもたず三原市。近々に新聞記者に話しをしようとも思っています。</p>
<p>平成23年度市民協働重点推進事業 ごみのないきれいなまちの実現を ～きれいな三原まちづくり条例 10月1日施行～ については、地元住民、地域住民と積極的にふれあい実施する「すその」を広げて行く努力が必要である。</p>
<p>この前、はげみ作業所で出しましたが、国土交通省で三原バイパスにて落下物を引いて、車がひどく傷みました。電話をかけて調べてくれたのですが、何もなかったとの連絡がありました。何も無いバイパスを走っていて車が自然に痛むのでしょうか？2時間ほど遅く保険会社が調べた結果、大型車のホイールと確認できたそうです。ただ走っていて車の修理代が、10万円もかかりました。</p>
<p>駐車料金が少しどうか、と思います。30分150円？車お持ちの方</p>
<p>私達仲好会は老人の方が喜んでもらえる事をしようという気持ちで活動しておりますのでこれからも続けて行いたく思っておりますのでよろしくお願い致します。</p>